



Panasonic
Strada F1X
CN-F1X10BHD



選出理由
基本性能を大きく伸ばす
極みの進化

受賞製品メモ
高速CPUが使われる新プラットフォームの採用により、ルート探索スピードは大幅にアップし、スクロール操作のスピードもアップ。ナビの本分たるマップ表示も、有機ELディスプレイのアドバンテージを活かして解像度が高められ、美しいだけでなく、文字や道路、さらに自車位置に渡るまで、すべからく視認性も増している。



パナソニック株式会社
オートモーティブ社
インフォテインメントシステムズ事業部
商品設計
柏淵健郎氏

毎年行うイヤーマodelと比べ、本製品のモデルチェンジはいつもとは少し様相が違った。「完全にイチから作り直しました。ストラダの場合ですと、これまで何度か大きな変更を行っています。特に今回はHD解像度になるターニングポイント

「旧プラットフォームでは、情報量を増やすとレスポンスが悪くなるし、通信機能も搭載できない状況でした(松本氏)」。当然、その規模の開発になれば、一様に話は進まない。「イチから作ったと言いましたけれども、ロジックを見直しながら実は何回も作り直したりもしています。試行錯誤を重ねながら性能を上げていきました(柏淵氏)」。苦労を重ねた分、得られるものも大きい。「正直言うと当初想定していたよりも、開発規模が大きくなり開発期間が長期化してしまった部分

大規模なモデルチェンジをもたらす 多大な労苦と、開けた新世界

「それが、カーナビ用の見やすさを重視しました。いくらリアルな描写でも、走行している時には道を見通す上で邪魔になってしまいうケースもあります。直感的に判断しないといけないような情報は、あえてシンプルにしています(柏淵氏)」。軽快な操作感を含め、その進化は表面のみに止まらず、より深く浸透する。「発売する直前まで、正常に動作するか、評価を綿密にしていくなければなりません。エラーが出るか出ないかだけでなく、本当にお客さんにとって使いやすいのかという面で、品質や性能を高めていきました(柏淵氏)」。キャッチーな言葉が並ぶ本製品ながらも、目指されたのは全方位での進化である。「実はオーディオ機能もだいぶこだわってまして、音の匠のところ新たに極サラウンドモードを入れてい

私が携わった製品の中で
一番愛着あるモデルになりました



パナソニック株式会社
オートモーティブ社
インフォテインメントシステムズ事業部
商品設計
松本裕之氏

ます。実はこれも、いつか搭載が危ぶまれた時がありました。ただそれを乗り越えたのは、ある部分だけに特化するのではなく、お客様に新しい音楽性を提供したい。結果、全体としてベースアップするという思いが背景にありました(松本氏)」。驚きの進化ながら、これでフィニッシュというわけではない。搭載できていない付加価値の高い機能がまだあるはず。そういったものは今後の課題でもありますし、積極的に開発していくことでイヤーマodelとしてまた進化していくことになり(松本氏)。



カーグッズ・オブ・ザ・イヤースPL

最先端を行く製品開発の
バックステージをのぞく

INTERVIEW with クリエイター

その年におけるカー用品の顔とも言えるのが、年末に誌上発表している「カーグッズ・オブ・ザ・イヤース」。昨年末の発表とはいえ、その先進性と登場意義は近未来のカー用品界をもうらなう。

年末から年始発売へと、3号連続展開も今回がファイナル。受賞製品の制作者に直接話をうかがい、傑作リリースの背景を聞いてみよう。

※インタビュー取材にあたり、撮影中のみマスクを外してご対応頂きました



制作者に直接聞く、
傑作開発の舞台裏